

C-32 紹ざし作業の疲労に就いて

和洋女子大 添田静枝 大塚寿子 早大 教育 ○伊藤秀三郎

目的 私共はいかに紹ざし作業が、身体を疲れさすかどうか、検討しようと思ふ試みた。

方法 被験者を2群経験者と未経験者とに分け、前者には教員（本学卒業生）を、後者には本学在学生（被服学科）を充てた。

疲労判定にはフリッカ一計（東測工業 KK）を用ひ、作業前のフリッカ一値を求めしとし、作業（30分間）後のものを、作業前のものとの比で求め、疲労程度を推定し、尚恢復の点も考えたので、作業後一定時間（30分間）経過した時点でのフリッカ一値を求め、矢張り比で求め考究した。尚作業時の姿勢は勿論椅子座位である。

作業としては、基礎となるべく最も初步的な、縦目二段、二枚と巻く様に刺しでゆく直線刺しの一投刺、二段刺及び四段刺で、此の外斜刺の場合も試みた。

次に使用具に及ぶが、紹ざし用鉢は縦横共に内径10.6cmのもので、使用布は専用の正絹3本生横縞で、縦1/19、横1/16で、使用糸は紹ざし専用の淡紫色、紫色及び濃紫色の3種の強捻糸で、使用針は紹ざし専用の針である。実験前木鉢に紹布を糊で貼り、乾いた時より60回を計りしつけ糸で縫い標をつけた。

結果 以上の実験から（1）直線刺しに於ける一投刺より四段刺の方が、（2）使用糸に於ける濃紫色より淡紫色の方が、（3）経験者より未経験者の方が疲労すると考究した。（文責 伊藤）

（御質問は伊藤に願います。拙宅の電話番号は03-334-1741です）